

そ の 他 の 調 査

美術工芸研究室・建造物研究室・歴史研究室・
平城宮跡発掘調査部・飛鳥藤原宮跡発掘調査部
・飛鳥資料館

南都諸寺縁起の総合的研究（科研一般研究A研究代表者 長谷川誠）美術工芸・建築・歴史・考古の各部門の協力によって、南都諸寺関係の縁起類を逐語的かつ総合的に研究しようとするものである。昭和42年以来継続しておこなっているが、現在は『護国寺本諸寺縁起集』の検討を実施中である。関連資料収集のため西大寺その他各所の調査・写真撮影をおこなった。

美術工芸研究室

仏像納入文書の調査研究 従来の収集資料の整理とともに資料集のための原稿作製にあたった。西大寺釈迦如来立像・伊勢御正厨子関係の納入品を再調査し、竹腰健蔵氏蔵愛染明王像（建長、快成作）を調査した。

写真測量による仏像実測調査 平城宮跡発掘調査部計測修景室との協同で実施している写真測量による実測調査については、本年度は主として図化作業を進め、乾漆面に続いて木彫面の図化をおこなった。

仏像修理記録に関する調査研究 本研究所所蔵の「仏像修理記録」（旧日本美術院第2部記録）の編集刊行にともなう調査研究で、図版資料の整地とともに（唐招提寺篇1）の図版の印刷を終った。

仏像における光背・台座の基礎的調査研究（科研一般研究D研究担当者 星山晋也）仏像の荘厳具である光背・台座の収集とその形式変遷を実証的かつ復元的におこなうもので、本年度は、埴仏にみる荘厳も資料に加え、昨年度にひきつづき如来像についてその資料を集めた。

南都諸寺所蔵典籍古文書調査

歴史研究室

西大寺 1973年6月、1974年2月。古文書・典籍の調査ならびに整理を行った。前年度よりの継続調査であるが、今後なお数年を要する見込である。

唐招提寺 1974年1月。典籍類の調査ならびに写真撮影。

仁和寺典籍古文書調査

1974年2～3月。従来よりの継続調査。塔中蔵階下収納の典籍類（主として版本）を調査（約20箱）。

その他の調査

神宮文庫 1973年6月・9月。従来よりの継続調査。古文書・記録類の調査ならびに写真撮影。

醍醐寺 1973年8月。醍醐雑事記その他の調査ならびに写真撮影。

吉川家文書（岩国市）1973年11月。調査。

根津美術館 1974年1～2月。「諸宗雜抄」所収聖教類の紙背文書の調査ならびに写真撮影。同館の御好意によりとくに許されて袋綴装の紙摺を解いて調査を行なうことができた。内容は本号に別掲紹介。

興福寺 1973年7月。春日版板木調査（文化庁実施の調査に協力）。

石山寺 1973年8月・12月。石山寺一切経調査（同寺よりの依頼による。調査責任者：嵯峨美術短期大学長、佐和隆研氏）。

高山寺 1973年4月・7月・12月。古文書・典籍調査（畠山文化財団研究費、代表者：東京大学築島裕氏）。

建造物研究室・平城宮跡発掘調査部

壬生寺狂言堂 壬生寺からの依頼で壬生大念仏を演ずる狂言堂（大念仏堂）を調査した。洛中に三大念仏といわれた峨嵋・壬生・閻魔堂のうち今日なお古式を伝えながら毎年狂言が行われている舞台上、民衆芸能の建築として類の少い貴重な遺構である。今回の調査で棟札および鬼瓦銘を発見して安政3年（1856）の建立であることが明らかになった。建物の主要部は桁行7間・梁間3間・2階建、入母屋造で階上を舞台と橋掛り、鏡の間、下を小道具や衣裳部屋とし、その背面に葺下ろしで梁間2間半の楽屋を設ける。

舞台正面に切妻造の破風をかけながら全体を横長の入母屋造の屋根でおおい、下手橋掛りの前は1間通りを切落してとびこみと称する土間にするなど、能舞台の影響が濃いなかで壬生狂言独特の演技に適合した舞台構成をもっている（参加者鈴木・細見・中村）。

元興寺極楽坊本堂内の旧莊嚴 元興寺極楽坊には昭和26～29年の本堂解体修理時に天井裏から発見された40数枚の板絵があり、阿弥陀や釈迦の千体仏その他を画いて中世庶民信仰の好資料となっている。これらの板絵は恐らく元来は本堂内壁を飾っていたと思われるが、その旧状などは全く不明であった。今回、寺からの依頼で板絵の性格を明らかにする研究の一端としてその旧位置を考定する調査を実施した。

調査は本堂内の柱や貫に残る痕跡から堂内の間仕切装置の変遷をたどり、現在にはすべて吹放しになっている内陣の周囲が引戸や壁で囲われ、外陣にも隔壁が設けられていたことが判明し、板絵の長さによって適合する壁面がある程度限定しうることが判った。板絵は長さや厚さで8種類に区分され、最も長いものは内陣前方で左右対称に両界曼荼羅壁状に対立する壁面に限られ、次の長さのものは内陣周壁に張付けて用いたらしい（参加者鈴木・岡田）。

大和民俗公園移築民家調査 植村藩高取城の城下町、奈良県高市郡高取町に残る臼井家住宅は17世紀末頃の農家風の町屋で、大手門に通ずる街道北側に面し、草葺に瓦庇、内部は東方を土間としもみせ、居室部は整形4室の上手にぎしきが付く5間取りで、なんどには帳台構えの痕跡もある。県下でも重要な民家の1つと考えられていたが、とりこわされるため、奈良県が寄贈を受けて移築保存することとなり、その解体前調査に協力した。その結果、永久保存さ

その他の調査

れるべき重要な民家であることが確認された。また72年に解体し保管されている榎原市中町旧吉川順作家住宅の解体部材を再度検討し、復原案作成に協力した(参加者鈴木・岡田・宮沢)。

振徳堂(宮崎県日南市) 1974年1月。振徳堂は天保2年に開校した飢肥藩の藩校で、現存する長屋門と、玄関・素読室などをもつ主屋の2棟を中心にその環境保存を含めた復原修理、整備計画および今後の維持管理の方針について指導した(参加者鈴木・細見)。

矢島薬師堂(秋田県矢島町所有) 永禄4年(1561)在銘の桁行1間・梁間1間、方90cmの厨子。現在桁以下の約90%の部材と鬼板1枚を遺存する。今回秋田県よりの依頼で調査をおこない、屋根入母屋造、こけら葺、妻入りと想定し、復原図を作製した。秋田県では、これに基づいて次年度現寸模型を製作し1976年開設の県立博物館に展示する予定である(参加者細見)。

榎原市文化財調査 榎原市の文化財保護の基礎資料として市内の建造物調査を行った。既に指定を受けているものの他にも、地黄町の人磨神社本殿が室町時代の建築であることを始め、江戸時代初期・中期の仏堂・社殿はかなり残っていることが明らかとなった。中町の浄楽寺本堂は多武峰(現談山神社)の経蔵を移築改造したものと伝え、多武峰関係の遺構として重要であろう。また長谷街道と中街道の交点札の辻を中心に発達した八木町は今井町とともに歴史の古い町で古い町屋が多く残り、伝統的な環境をよく残している。今回その一部について調査を行なったが、今後本格的な調査を行う価値が認められた(参加者岡田・宮沢・藤村・上野)。

湯納遺跡(福岡市) 福岡県教育委員会による発掘調査。1973年5月。出土した建築部材より古墳時代の高床建物の復原が可能。臼、杵など生活用具も伴出。発掘部材は九州歴史資料館で保存処理中(参加者沢村・細見)。

不動堂遺跡(富山県朝日町) 富山県教育委員会による調査。1973年7月。長辺17m、短辺8mにおよぶ縄文中期の巨大な竪穴住居跡について写真撮影および、その推定復原図を作製した(参加者細見・佃)。富山県教育委員会『不動堂遺跡第1次発掘調査概報』1974.2参照

環境整備

平城宮跡発掘調査部

大宰府都府楼(福岡県築紫郡太宰府町) 1973年3月～74年4月。都府楼西辺回廊、及び西側付替道路・溝の実施設計の指導を行なった(参加者牛川・田中)。

川原寺(奈良県明日香村) 1973年3月～74年4月。建物基壇造成、礎石据え付け、溝造成など整備工事の指導監督を行なった(参加者牛川)。

出雲国庁跡(松江市大草町) 1973年11月。建物以外の砂利敷・溝造成植栽など実施設計・施工の指導をした(参加者牛川・田中)。

座喜味城址(沖縄県読谷村) 1973年12月。読谷村の依頼により、座喜味城跡の整備基本計画の指導をした(参加者田中)。

写真測量等

一乗谷朝倉氏館(福井市足羽町) 1973年9月、3月。修復後の館跡庭園実測のため、写真測

量により撮影し縮尺 $1/20$ の平面図・立面図を作成した（参加者牛川・伊東・田中・佃）。

熊山遺跡(岡山県熊山町) 1973年10月。遺跡修復のため現状の精密な記録保存用資料を得ることを目的に撮影し、石積遺構平面・立面図縮尺 $1/20$ を作成した（参加者牛川・伊東・黒崎・田中・佃）。「熊山遺跡緊急調査概報」熊山町教育委員会参照

中京郵便局（京都市） 1973年11月。建築学会、近畿支部の依頼により、郵便局外観の記録保存のため、写真測量により $1/20$ の外部立面図を作成した（参加者牛川・伊東・田中・佃）。

「京都中京郵便局庁舎調査書」日本建築学会、近畿支部参照

海住山寺・五重塔（京都府）、興福寺・北円堂（奈良市）、東大寺・鐘楼（奈良市） 1974年3月。従来から継続している建造物の経年変形量を知るため、撮影および測定を行なった（参加者牛川・伊東・田中・佃）。

発掘調査その他

平城宮跡発掘調査部

但馬国分寺（兵庫県城崎郡日高町）
日高町教育委員会を主体として、
当研究所と兵庫県教育委員会が共同して8月16日から50日間、塔跡を中心とする調査を行なった。塔は西辺部を残して全面調査し、基壇南辺が後世の攪乱を受けているほか比較的保存良好であった。基壇は一辺53尺の乱石積みで、各辺中央に階段をもち、基壇外周に2

但馬国分寺塔跡検出状況

列の石敷が巡る。平面は11尺等間、3間四方で、心礎と西南隅礎石を残すほか、根石等により位置を確認した。出土遺物は土器・瓦類のほか風鐸、瓦製隅木蓋を得た（参加者宮本・吉田）。

吉楽寺の瓦調査 奈良県教育委員会による瑞花院吉楽寺本堂の解体修理に際し、寺所蔵資料と合わせて新発見の橘氏銘瓦を調査する機会を得1973年4月に調査した。法隆寺との関連を研究する資料として貴重である（参加者森・田辺）。

京都府出土瓦の調査 丹後郷土資料館による「京都府の古瓦展」への出品協力に伴い、1973年7月に同館で京都府内出土瓦を調査した。山背・丹後・丹波三国間の大きな差異など新たな知見を得た（参加者森・岩本・大脇）。

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

飛驒国分寺瓦窯（岐阜県高山市） 国分寺瓦窯保存整備に伴う窯体確認調査を、高山市教育委員会が昭和48年11月15日～同21日まで行った。瓦窯は階段をもつ窖窯の形式で、3基並列している。ほかに平安時代末期の須恵器窯が2基存在している（参加者八賀）。